

**第6回**  
**第3期鳥取市中心市街地活性化基本計画検討委員会**  
**議事概要**

日 時：平成29年12月22（金）10：00～12：00

場 所：市役所本庁舎6階全員協議会室

出席委員：倉持委員長、桑野副委員長、英委員、玉木委員、渡辺委員、成清委員、中村委員、安田委員、土橋委員、中島委員、杉本委員、赤山委員

事務局：中心市街地整備課

オブザーバー：経済観光部

---

### 3. 報告・協議事項

報告事項：第3期鳥取市中心市街地活性化基本計画（案）について（事務局より説明）

[委員長]説明ありがとうございました。それでは、委員の皆様には計画に対してのご意見をよろしくお願ひしたい。

[成清委員]中心市街地活性化協議会の方でこれまでに様々な意見集約の場を設けさせてもらい、近日中に市へ意見書の提出準備をさせて頂いている。先ずはみなさまもこれまでに議論してきた中で思っておられると思うが、やはりまだ事業の玉が足りないという意見が多く出てきた。基本計画（案）で目標が三つ提示されているがこれに従って内容を報告したいと思う。先ず一つ目に地域資源等を生かした交流人口の拡大に向けてという部分だが、やはり中核市になるということで駅周辺がハブ拠点として重要になるという意見をかなり頂き共有しているところだ。駅周辺のエリアが重要になるが、やはりまだまだ機能の拡充が必要であり、しかも利用者、来外者の視点に立って何が必要なのかを検討して事業を発掘していくこと、それを官民連携でやっていく必要があるという意見が出てきている。また、大型の事業として、新庁舎の整備と城跡の整備があげられるが、そうした大型事業に絡めて事業を連鎖させて来外者や市民の期待値・満足度を向上させていく必要があるという点も重要だ。二つ目に滞在回遊による経済活力の向上に向けてという部分だが、中心市街地への新たな来外目的を創出していくためにも現庁舎跡地の活用ということが特に商店街の方々から意見が多くあった。検討が進んでいないことには諸事情があると思うが、暫定的な活用も含めて活用検討していくことが望まれる。それから、城下町の痕跡をはじめとして地域資源が歴史的な物も含めてあるわけだが、やはり鳥取は商店街が広く広がっている街なのでリノベーションによって新しく出来た店を含め既存商店とともに鳥取の街の個性として商店街をみんなで共有をして魅力を感じさせるような仕掛けづくりが必要であるということ。三つ目に若年層のまちなか暮らしの促進に向けてという点について、45歳未満の居住促進を掲げているが、やはりそこへ向かっていくためには若年層に選ばれる必要があることより目に見える変化が必要である。これは先の地域資源を生かした交流人口の拡大とか滞在回遊という部分にも繋がるが、そういったことを進めることとともにやはり受け皿の問題解決が必要である。袋川以北の遷橋地区、久松地区の高齢化が進んでいる区域に入りたいという方が結構居られる。そのような方の受け皿として、

空き屋というものをもっと上手に活用するためには住宅の確保について商店街、地域の方々と官民連携をして進めていく必要がある。また、住むということだけではなく起業支援や起業誘致についても商店街の中の空きスペースを活かして出来ないかという意見もあった。加えて、若年層に来て頂くためには子育て環境づくりにおいても空き家の活用という中でやっていく必要があるという意見もあり、ターゲットを定めて官民連携で一丸となって進めていくべきではないかという意見を取りまとめている。

[委員長]ありがとうございました。

[英 委員]前は欠席した関係でだいぶ経っているが、重点施策等の中で、駅周辺のにぎわい再生、回遊性という部分について、商工会議所としては駅前の横断歩道の設置を是非入れておいて頂きたい。これがあっての回遊性と言うことだろうと思う。社会実験で10年前に行っているが、これを途切らせることないようにするためにも、今回がチャンスだと思う。市庁舎が出来て南北の回遊性と言う部分では横断歩道があると一気に街全体の回遊性向上に繋がっていくということで今回が非常に大事な時期だろうと思う。商工会議所としてもそれをバックアップしてやっていこうと思っているのでよろしくお願ひしたい。それから観光交流だが、通行量が減っても観光施設の入館数がどんどん増えている。ということは何が言えるかということ今後観光商業というキーワードがとても大事であるということだ。今年9月に彦根のキャッスルロードに行ったが、15年前に来訪した時よりも発展しているというか賑わっている。15年前と比べて賑わっているロードなどほとんど無い中で、これだけ賑わっている理由を聴くと、やはり観光、観光商業を切り口に活動しているということであり、これからの重要なキーワードだと思う。それからパブリックコメントにもあるが、既存店の強化については、ただ強化すれば良いのではない。新しく店舗を出される方はその時代に合った店作りを行うが、既存店の場合は既存にてこ入れするのが良いのか、あるいは業種転換も考えて時代に合った形を変えていくのが良いのかを見極める必要がある。商店街の理事長としてつくづく思うのだが、自分がずっと長年やってきたことの火を何とか消さずにやっていくことが果たして街の発展になるのかと言うと案外それが一番大きな問題になっていると思う。時代の流れに逆らって何とか頑張っていくとなかなか結果が出ない。それを認めた上でその流れに対してどういう方向で各個店がやっていくのか、商店街が商店街としての形を作り求めていくのかを真剣に考えていかなければならない。何とか交流人口を増やしましょうと言っても流れに逆らっては到底難しい部分がある。その辺の取捨選択が大事ではないかと考える。色々と話したけれども、そのような視点が大事であると考えている。1期2期はハードで結構やった感もあるし大きく変わった部分もあるが、3期はそういうものが少なくなったため、一つの街のあり方というものを見直すきっかけではないか。1期2期はハードを中心にしてそれにソフトを絡めて街を変えていこうということでしたが、3期ではそもそもの街のあり方、回遊性とかを高めるにはどうすれば良いかということを考える、視点を変えてみるなど、別の意味でのチャンスである。ハードに頼らない分、そうした視点を変えることが今回の大事なことではないかと思った所です。

[委員長]ありがとうございました。

[渡辺委員] テーマ「集い、つながる、とっとりのまち 山陰東部の都市核づくり」についての議論はこの検討会ではほとんど行われていない。ここで「共通してつながる」と言うが誰がつなげるのかという部分、連携とか繋がるとか言葉としてはたくさん出てくるがそこを繋げる担い手はどう作るのかということと、中核都市がどうのこうのとあるがこれを理解している市民が何人いるのかという気がします。そういった中で、商店街でも庁舎移転を機会に閉店しようという声がかかなり出ていることも事実である。また、既存庁舎跡地の問題についても何か造ってくれと言う意見は出るが、自分たちでどのようにしようという声が出てこない状況にもある。そのような中で第3期に向かってもっとも必要な精神と言うか、私自身が考えるには、鳥取市の街なかに新しい価値を創造することが一番大事だと思う。中核都市がどうのこうのより、鳥取の街をどうしていくか、すなわち資源を活用するには鳥取らしい価値を創造していき、その中で跡地の問題とかはできてくる。跡地の問題の検討が先ではなく、そういう繋がりを作っていく担い手たちの集合体が資源の活用をどうするか、それが鳥取らしい価値の創造の中で物事を作っていくことにしなければならない。これは前回の検討会で話した「実感なき成功」ということとなり、指標が出来たと言われるが、誰が担って、どういう形で資源を活用して自分達は鳥取らしい街の価値を創ってきたかということが検証出来ないと思う。そういう目標の中では、新しい価値の創造ということが鳥取らしさを創っていく上で、一番必要なことだと思う。城跡を造ること、新しい庁舎を造ること、これらはかなり土木的な問題で公共事業である。それらをどう活用し、どうやっていくか、ここに人々が繋がると言うことが大事である。私自身は「集う、商う、住む、担う」を中心にしながら、担い手が新しい環境を作っていくことが大事で、ハードに向かうためにはその価値として、鳥取らしさを、資源を、あれば鳥取らしく使う、無ければ作るという作業が必要だと思う。そういうことを入れて頂きたいのが実感だ。

[土橋委員] 65 ページに4つの重点施策があり、集客力向上を図る、経済活力の向上を図ると書いてあるが、結局は駅前周辺に地元の人に来てもらう必要があると思う。観光客と言っても列車を利用してきた人を対象にするとなかなか少ないと思う。また、観光バスで駅前の方に着いて皆が降りて、その周辺を回遊するというようなこともあまり聞いたことがない。地元の人、鳥取市の人はどうアピールして駅前周辺に来てもらうかを第一に考えないといけない。最近は何かあったらすぐ郊外のイオンに行く傾向が見られるが、そうではなく、たまには駅前に行ってみようというようなことを鳥取市民の人に考えてもらわないとなかなか難しいのではないか。そのような点を市民にどうアピールしていくかということもこれから大切なことなのではないか。観光客については、なかなかバス2台、3台を駅前に着けて集客力の向上は図ることは期待できない。その辺が何かもう一つ、前に挙がっていた鳥取温泉とか目玉が作れないかという気がする。

[赤山委員] 先程、渡辺委員の方からテーマに関する話が出たが、集い、繋がるということは人との関係性にあると思います。また、英委員からもハードに頼らないと言われていた。まさにその辺が今回の集い、つながるということに出てきたと思っているのだが、それに至る48頁の中心市街地活性化の基本方針の中では、集い、繋がるがいきなり出

てくるので、もう少しどうしてこういうことになったのかと経緯的な説明があった方が良いのではないかと。いきなり集い、繋がるとあってその後ちょっと書いてあるが、どうしてこういうテーマになったのかをこの中で述べておく必要があるかと思う。

[事務局]確かに説明が無いので、少し意味合いのようなものを追記修正させていただく。

[杉本委員]事業概要等は見えるが、この事業を推進させるための予算の資料はないか。実効性があるような予算が組んであるのかについて確認したい。

[事務局]予算については、各課から提出された資料はある。ただし、議会の議決を経て初めて予算が付くような形になるので、それを今の段階で示すというのは難しいということで資料としては出していない状況にあります。

[杉本委員]具体性、実行性のある内容になるかどうかが問題であり、ここに出てくる理想論だけでなく、具体的な展開によって、はじめて事業の進捗具合が図れると思う。私たちに見えているのは題目みtainな理想論だけですから、それを事業として展開するための手段として予算の内容や予算付けがしてあるかというのは重要なことだと思うのです。それが無くて、この計画が実現可能なのかお題目だけで終わるのか、その辺りが見えないと思う。

[委員長]今の指摘について、83頁以降の具体的な事業の中で、例えば、今回の中活の計画が国に認定されるとこの事業が動き出すとか、具体的に実施可能性が高まるとか、あるいは中活に認定されなくても単市としてこれはやっていくというものがあれば教えていただいた方が良く思うがいかがか。

[事務局]支援措置のところでは国の交付金による支援とか、あるいは、支援措置の無い事業もあります。支援措置のある事業というのはほとんどが既に国の方に計画を出していて実際やりますという事業になってくるものです。支援措置の無い事業については民間の事業も含まれていますが、様々な事業があり、実際やっている事業、継続する事業、また新たな事業もあります。この辺は我々も財政当局の方といろいろ折衝した中で、事業に載せられる載せられないというところがあります。そういった議論を踏まえてここで載せている事業については実際に今後取り組むべき事業という位置づけにしています。今後、予算が付いたり付かなかったりする可能性があるかと思いますが、そういった事業については来年度以降変更して載せていく形になると思います。以上です。

[渡辺委員]先ほど話した補足になるが、パブリックコメントもそうですが、誰もがこういうことについて要望ができる場はあるが、誰もが参加できる場づくりもソフト事業には必要と思う。私が非常に気になっているのは、例えば、既存庁舎に「何々つくってくれ」「こんなのがいい」という要望はどこに向かって言っているのだろうか。そういうことではなくて、誰もが参加でき、街づくりというのはこういうものだということをきちんと分かってもらうことが重要である。3期計画ではそのような場も作っていき、新しい価値を見出していく場も担い手づくりとしてあってほしい。要望する人は担い手だと思っていない。リノベーションを一生懸命やる、こういった人たちは担い手です。それを繋ぐ作業をする人も担い手だと思う。だから、今までのように専門的に街づくりに関わってきた人だけが街づくりをするのではなく、誰でも参加できるというところを目指していかないといけない。将来継続して街づくりを進める上で、プロの

方がかえって資源を見落とすかもしれないし、素人の方が新しい資源を持ってきてくれるかもしれない。そのような点も考えていく場が欲しいということです。

[委員 長]ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

[中村委員]先ほどの話にもありましたように、問題意識を持つということ、もともと問題意識が高い住民ばかりではないと思うが、今鳥取市が抱えている問題や課題は、もっと子どもの頃から街に興味を持ってもらい問題意識を高めるような取り組みや自分たちが出来ることは何かといった行動や活動に小学校、中学校の頃から関わっていくことが出来ないかということだと思う。また、活性化の点で、先ほど地元住民と観光客それぞれに対しての働きかけも違うのではないかという話があったが、地元の方々いつも話題になるのは駐車場問題です。例えば、本通りの1区画を路駐OKのエリアゾーンを作るとか駐車場が無料で使える場所を増やすだけで、中心市街地の売り上げが何割か上がる可能性があるかもと極端に言えば思います。そして、県外観光客、地元の方もそうですが、人が集まる賑やかな交流観光の街づくりといった時に、そもそも交流ってなんだろう、観光ってなんだろうというのを考えると、10年前20年前の交流の仕方がずっと続いているわけではないと思う。今、例えば大人の交流であれば、ほとんどが個人で活動してSNS上であり、アプリを介して遠くの人と交流することが増えている。このことを前提に考えた時に、観光の仕方や交流の場づくりは今までと同じでは駄目である。指標にある観測地点の仁風閣に私は、これまでに3回写真撮影の仕事で行きました。このように撮影場所として使われているケースが近年非常に増えていると感じており、撮影に適した場所を増やすだけでそれが交流になるわけです。写真の撮りたい場所を作るとというのが観光地を作ることになり、ここだけにしかない場所というのが鳥取市のどこかにあれば人が来るわけで、そもそも交流とは何か、観光とは何かということを考えて上でお金の使い方、事業への落とし方に取り組んでいただきたいと思う。

[安田委員]内容というより、その先の話になってしまうが、高齢人口の拡大や経済活力の向上という名目で何か動きがあった時に告知の仕方を考えていただきたい。私は鳥取大学生なので鳥取大学の話をしますが、鳥取市にはデザインの優れた紙物の告知広告があるのですが、大学生がそれを手にする場面はかなり少なく、イベントやお店のことに限らず、「知っていたら行ったのに」という声が非常に多い。このため、紙物もありながら、フェイスブックやインターネットを使って、写真の1つ2つを付けて頂いて知らせていただくのが大事かと思っています。また、大学生も立派な消費者ですし、市民の方よりも車を持っていないため公共交通を利用して鳥取駅に来る可能性が高いので、そういった点からも来訪頻度を増やせる機会があるのではないかと思います。告知の方法をもう少し工夫して頂けたらと思っていますのでよろしくお願ひします。

[委員 長]ありがとうございました。他はいかがでしょうか。

[英 委員]先ほどの話で、1期2期と3期は違うといった意味ですが、3期は極端な言い方をすると国の認定を受けずに進めていけば良い。国の認定を受けることを前提にすると、標準色に染めさせられて、ありきたりの計画になってしまう可能性がある。果たして認定の必要があるのか。今回だけは、極端な言い方で申し訳ないのですが、鳥取色で染めていったら良いのではないかと。すみません、それくらいの勢いでやった方が良い

のではないかという意味です。

[委員長]事務局の方で何かコメントがあればどうぞ。

[事務局]2期計画が終わり3期計画に向かうにあたって、認定を受けずに実際鳥取市独自の計画を作って進めようという議論もあったのですが、国の認定を受ければ、交付金が多くもらえるとか、バードハットの大丸前の椅子が置いてあるところの特例専用のような支援も可能となります。また、国のお墨付きを受けることによって、毎年フォローアップという形でしっかりと成果を評価できるという点もあげられます。あとは官民連携で事業を推進していけることもあって向かっていこうというところですよ。

[英委員]その点についてはよくわかっています。そういう気持ちで取り組むくらいの気持ちの3期計画ですよ、それが言いたかっただけです。

[委員長]ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

[桑野委員]今の計画は国の認定を受けるためには、どうすれば良いかという点を考えながら作られていると思うのですが、認定が通ったら今度これを使って住民の方々がどう動くか、どう活動するかということになってくると思う。認定を受けた後に住民が見た時にどう感じるかということも意識しながら、改定していった欲しいなと思います。また、何回かこの会議に参加させていただいたが、一番印象に残っているのは、空き家があってどんどん困っているではなくて、空き家がたくさんあるという事はどんどん変化する、ポテンシャルがあるという風に考えるべきだと皆さんが言われている点であり、私もその通りだと思っています。先ほど子どもの担い手を育てていく必要があるという話がありましたが、担い手を育てていく上で鳥取は大変だから残ってくれと子どもに言ってもなかなか残ってくれなくて、皆さん頑張ればこんなに良くなるのですよというポジティブな説明をしないと人は集まってくれないので、そういう事を意識しながらどんどん良くなるのですよということをメインに書いてほしいです。駄目なものできるだけ無くそうとするのではなく、良くしていこうというところを意識してまとめていただけると、後で住民が読んだ時に理解していただきやすいものになると思います。

[中島委員]人口減少社会の状況ですので、交流人口の拡大というのは難しいと思うのですが、私としてはこの計画に異論はない。交流人口の拡大が大きな課題ということですので、交通を少しでも整えていかなければならないと思っています。

[玉木委員]個人的な細かな意見なのだが、起業の街とっとりで事業所を455から467にするという目標値について、意外に意欲的な数値だなと思っている。平成25年から平成29年の期間に事業所が26も減っている状況を踏まえると、多分この推計値467よりもっと下がるだろうと個人的には思っている。県外から起業する方を呼ばれるということだが、中心市街地は家賃が高い、郊外で起業した方が安く済むという事を考えると、相当インパクトのある事業を打たないと県外から多くの人を呼び込むことは難しいと個人的に思ってしまった。インパクトのある施策を期待している。

[委員長]では、事務局の方に進行をお返ししようと思うが、私から一言だけみなさまの意見を聞いて思った感想というか印象だが、1期2期の頃に比べて3期になってみなさま街なかに対する意識や課題の認識が深まりつつあるのかなという気もする一方で、あきらめにも似たような感情もそこに混じっている気もする。その中で取り組むことの難

しき、ハードルの高さも意識したような意見も多いなと感じている。それは致し方のないことだが、一方で中村委員が言われたように、規制緩和とかそういう部分でまだまだ出来ることもあるような気がしていて、お金をかけないで少し動かしてみる。当時は芝生の実験は非常に大きくお金がかかったけれども、あの手の実験に近い形で一時的に緩めてみるとか、あるいはちょっと縮めてみるとか、そういう事はあまり力を使うべきじゃないかもしれないが、そろそろ必要になりつつあるのかなという気がしている。また、みなさまの意見の中からは、もう少し本音ベースでトーク出来る場が必要なのではないかといった点を感じている。鳥取市にはいろいろな会議の場があって私もいくつか参加させてもらっているが、基本的に行政が用意する会議の場というのは何かをするのが前提で集まっている会議なので、そこで例えば「しない」とか、「後ろ向きな意見」を言いにくかったりする場が多いと思う。「後ろ向きな意見」を言いながら、その中からポジティブなことを見つけていくということもあると思う。このため、それが民間主体ですべきなのか、あるいは鳥取みたくところは若干自治体がそういう場の形成を支援しつつ、自由に意見が言える場を作っていくということが必要ではないかとみなさまの意見を聞いていて感じた次第だ。いずれにせよ、最後に活発な意見も出てきたと思うので、こちらをよく事務局の方で精査されて、反映、修正していただきたいと思う。

#### 4 その他

[事務局]冒頭でも言いましたが第6回という事で最終会議となる。最後に都市整備部長の方からの挨拶で締めたいと思う。

#### 5 部長あいさつ

[綱田部長]この検討会議は今年の6月1日が第1回ということで、本日は第6回を迎えました。計6回にもわたりまして幅広く多様な貴重な意見をたくさん頂きましてありがとうございました。本日、委員の皆様からいろいろご意見をいただいたように、この計画自体が満足のいくレベルというものではなく、先ず出発点であると捉えたいと思います。実務的にはこれから再度内閣府とやり取りしながら、微修正的なところはあろうかと思えますし、先ほどご指摘いただいた部分で計画の中で修正させていただく部分もあろうかと思えます。また、とりまとめ等の段階になりましたら委員の皆様もご覧できるように計画書を配布させて頂くように思っています。いずれにしましても、来年の4月1日鳥取市といたしましては中核市ならびに連携中枢都市圏の形成ということで市政全体が大きく変わっていきます。その際に鳥取市中心市街地の役割はこれまでも増して重要になってきますし、新たな役割が必要になってくると思います。今回の意見の中でもポジティブにというようなご意見も頂いておりますが、冒頭に委員長の方からも評価や確認の充実というようなお話も頂いたように、我々としまして先ほども言いましたようにこれは出発点と捉えさせて頂きまして、この新たな5年間、改善出来るものは改善し、充実出来るものは充実していくというような取り組みを進めていきたいと思えます。本日は最終回ということになります。引き続きまして今後ともそういった取り組みを進めさせて頂きましますので、ご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。

ます。どうもありがとうございました。

## 6 閉会